



1枚の写真を
追って

第22回 京都府NIEセミナー

「大正自由教育と新聞活用」

大正初期の京都の尋常小学校の
教室で新聞を開く子どもの姿——。
京都市学校歴史博物館の展示写真を
手がかりに9年近く取材、調査。
校長と担任教師が特定され、
そこに浮かび上がった授業は
アクティブ・ラーニングに通ずる
児童本位の教育実践だった！



写真提供:京都市学校歴史博物館

京都で2024年8月、NIE全国大会(日本新聞協会主催、京都府教育委員委員会・京都市教育委員会 共催)が開かれます。NIE(教育に新聞を)は1930年代に始まり、日本では1980年代後半から教育界と新聞界が協力して実践を進めている学習方法です。それよりはるか以前に京都の学校で行われていた新聞活用の意義を城島さんの取材、調査とその過程から学びます。探究をキーワードとした教育やデジタル活用が広がる中で、情報との接し方や、歴史への向き合い方を考えるひとときとします。

参加無料、定員150人(会場50人・オンライン100人)

日時 2023年1月27日(金) 18:30~20:00 (18:00開場)

会場 京都新聞社7階文化ホール ※オンライン(ZOOM)併用
(京都市中京区烏丸通夷川上ル 地下鉄 丸太町駅7番出口)

セミナー当日の進行予定

- ◆開会行事、NIE全国大会(2024年京都大会)について主管団体が紹介(15分ほど)
- ◆城島さんの講演、林さんをお交えたトーク、質疑応答(70分ほど)



城島 徹さん
ジャーナリスト

明治大学基礎マスコミ研究室主任研究員。1981年毎日新聞社入社。社会部記者、アフリカ特派員、大阪本社編集局次長などを経て2021年退社。その間、日本新聞協会NIE専門部会長、複数の大学で新聞活用授業の非常勤講師を務めた。現在は京都で暮らし、取材活動中。著書に「新聞活用最前線」(清水書院)、「私たち、みんな同じ一記者が見た信州の国際理解教育」(一草舎出版、地方出版文化功労賞奨励賞受賞)など。編著書に「いのちを刻む 鉛筆画の鬼才、木下晋自伝」(藤原書店)、「やさしい主権者教育—18歳選挙権へのパスポート」(東洋館出版社)。共著に「新聞で育む、つなぐ」(同)など。



林 潤平さん
京都市学校歴史博物館
学芸員

参加申し込み・問い合わせについて

参加申し込みは**1月23日(月)**までに nie@mb.kyoto-np.co.jp へ

①氏名・所属 ②連絡先(電話番号とメールアドレス) ③希望の参加方法(会場か、オンラインか)をお知らせください

問い合わせ・電話での参加申し込み **075-241-5231** (京都府NIE推進協議会事務局: 京都新聞社読者交流センター、石崎・丸尾)

※感染症の拡大状況によっては全面オンライン開催に変更します。また、当日の聴講が不可能な参加申込者向けにアーカイブ(記録動画)を送る予定です。オンライン(ZOOM)URLの受信・参加が可能なメールアドレスをお知らせください。

主催 京都府NIE推進協議会

後援 (申請中を含む)

京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、
京都市小学校NIE実践研究会、京都市立中学校新聞教育・NIE研究会